

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人まるいち会
施設名	戸手南保育所
報告者（役職）	朝倉 佳子（主任保育士）
住所・連絡先	広島県福山市新市町戸手 88 番地 1
	☎ 0847-52-5545
	E-mail todeminami@maruichikai.jp

### ○タイトル（保育計画）

乳児保育の充実で“意欲”を育む

### ○主な助成備品

マスセットふわふわハイハイマット、ハイチェア・テーブル、プレイパーテーション

## 1. 保育計画策定の目的

戸手南保育所は、2017年度まで福山市立の保育所として運営されていて、2018年度から私立保育所として当法人が運営することとなる。公立保育所時は、3歳児からの受け入れとなっていたが、乳児の待機児童が多い地域ということで、2018年度より1・2歳児の受け入れを行い、2019年度より0歳児の受け入れを行っている。施設の老朽化も著しく乳児の受け入れの拡充のため2018年度に園舎の建て替えを行った。ただ乳児の受け入れ人数の拡大のみを目指すのではなく、近年危惧されている子どもたちの体の動きや食についても気になる中で、遊びを通しての体力づくり・離乳食期からの食育にも力を入れ、子どもたちの心身の充実が図れるよう保育の質を充実させ、より安心して預けていただきたいと考えている。

発達の連続性を意識しながら、一人ひとりの成長に応じて、楽しく遊びながら体力づくりができる環境、食べようとする意欲を引き出せる環境を整えていきたい。

## ベビーナハイチェアー・テーブル

### 2.具体的な実施内容

月齢の低い、離乳食を食べている子どもに使用した。足の置き場所も一人ひとりに合わせて移動することで、正しい姿勢で食事をする事ができた。いつも同じ席、同じ職員が関わることや月齢の高い子が触ることなく、安心して、集中して離乳食を進めていくことができた。椅子はローラーが付いていて重ねられるので、保育士も楽に移動や収納ができる。

### 3.その成果と評価

目線が違うので、月齢の高い子どもが、離乳食が気になって近づいて来たりすることもなく、集中して食事の時間を楽しむことができています。出入りしやすく足の置くところも安定していることで、嫌がることなく安心して座ることができています。食事の時間が楽しみになり、自分で手掴みやスプーンを使って食べ、順調に離乳食が進んできました。

### 4.今後の課題と展望

ハイチェアーは立ち上がろうとする子はとても危険なので、目を離さないようにする必要があります。早くから座らせたりせず、食事中はしっかりと子どもの食べる様子を見ながら食事の時間が楽しくなるようにしていきたい。



## マスセットふわふわハイハイマット

### 2.具体的な実施内容

マットの上で安心してふれあい遊びをしたり、マッサージをしたり、また、寝返りも充分にできる広さで安心して見守ることができた。4枚つなげることでさらに広いスペースになり、お座りができ始めた子どもも転げて頭をぶつけることを心配することなく、保育士も安心して見守っていることができた。

スロープマットでは傾斜を楽しんでハイハイしたり、よちよち歩きの子はバランスを取りながら上がったり下りたりと体幹も鍛えることができていたようだった。ステップの部分には座ってみたり、つかまり立ちや伝い歩きする姿もよくみられた。このマットを常時設定しておくことで自由に遊べるようにし、身体を使った遊びを促していった。また、玩具を転がして楽しむ姿も見られた。

### 3.その成果と評価

室内に簡単に設置することができ、自由に組み合わせを変えることもできた。滑ることもなく、簡単に移動できることで、その日の用途、また発達に合わせることもできた。マットを常時設置しておくことで、子どもたちは自発的にマットに近づいていき、自由にハイハイしたり、寝転んだり、歩いたりする姿が見られた。近づくことでトラブルにつながることもあるが、他の子とのかかわりも増えたように思われる。やわらかいマットで安全に安心して、寝返りから、お座り、ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩きといろいろな体の動きを充分にすることができた。保育士も、安心して見守ることができた。

### 4.今後の課題と展望

一度に数人が集中すると押ししたり、十分な活動ができないことがあるので、一人ひとりの発達にあった活動が保証されるよう工夫していく必要がある。今後もこのマットを使って発達にあった遊びをしっかりとしていきたい。



## プレイパーテーション

### 2.具体的な実施内容

食事の準備、食後の片付け、掃除などの際に、子どもたちはプレイパーテーションの中で安心して遊ぶことができた。パーテーションに付いている玩具をつまんで動かしたり、引っ張って遊んだり、外側をのぞいたり、またつかまり立ちや伝い歩きを楽しむ子もいた。低月齢の子が高月齢の子と活動が違う際、パーテーションの中で、ゆったりと安心して遊んだり、授乳することができた。

### 3.その成果と評価

1日の保育の流れの中、限られたスペースで食事・午睡の準備・かたづけなど子どもに無理なく過ごさせるために、パーテーションは必要不可欠だ。プレイパーテーションには指先を使う0歳児の興味をそそる玩具がたくさん付いており、またいろいろな感触の材質のもの、特に人気だったのは外をのぞける大きい半円のものだ。つかまり立ちや伝い歩きも促すことができた。授乳の際には、他の子に邪魔されることなくゆったりと1対1でミルクを飲ませることができた。木製で色合いも落ち着いて、部屋の雰囲気にもマッチしており、圧迫感を感じることなく過ごすことができています。

### 4.今後の課題と展望

0歳時は月齢差が大きいのでパーテーションで区切られたスペースを活動によって有効に使っていききたい。狭い空間はどうしても閉塞感があるので、それを感じさせないようにしていきたい。また、このプレイパーテーションを活用しながら遊びを広げていきたい。

